

平塚市総合防災訓練への参加



自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 田中 勇一陸尉）は8月19日（土）、昨年同様今年も気温33℃を超える晴天酷暑の中、平塚市総合公園で実施された平塚市総合防災訓練（防災フェア）に参加した。訓練開始にあたり落合 克宏 平塚市長は「本年は関東大震災から100年にあたり、その教訓を生かしながら市民一体となって防災対策に取り組む必要がある。地震災害だけでなく豪雨災害などもいつ起こるかわからないので、本訓練を通じてそれら災害に対応する態勢をしっかり作り上げよう」とも、平塚市民の防災意識の高揚を図るきっかけとしてもらいたい」と挨拶された。本訓練は、座間駐屯地に所在する陸上自衛隊第4施設群のほか、神奈川県警察、平塚市消防、ガス、水道、電気、通信等ライフライン関連企業、自主防災組織、各種ボランティア団体等が参加して、地震発災後の火災消火、倒壊家屋からの要救助者の捜索・救助、道路やライフラインの復旧手順を確認する「防災関係機関連携訓練」と、関連企業や団体が啓発パネルや防災関連資機材を展示し来場者に実際に体験してもらう「防災フェア」の2部構成で実施された。

平塚地域事務所は「防災フェア」に広報ブースを設けて、東日本大震災、令和元年台風19号、平成28年熊本地震等の自衛隊の災害派遣における活動パネルの展示を行い、災害対応時の自衛隊の役割について紹介した。今後各市町の防災訓練に積極的に参加して、自衛隊の活動をアピールしていきたい。

自衛隊相模原地域事務所部活動応援企画「ジョイトレ（体験入隊）」を支援



自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻一陸尉）は8月21日（月）・22日（火）、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地（静岡県御殿場市）の支援を受け、高校生に対し部活動応援企画「ジョイトレ（体験入隊）」を実施した。3年目の今年は、滝ヶ原駐屯地持続走練成隊と光明学園相模原高校陸上駅伝部26名との合同練習に加え、自衛隊で生活体験したいとの学校からの要望を受け、1泊2日の日程で実施したものである。

滝ヶ原駐屯地に到着後、受付、昼食を済ませて御殿場競技場に移動し、準備運動の後、生徒を4グループに分けてそれぞれに隊員を配置し、御殿場登山道を富士山5合目まで駆け上った。その後、滝ヶ原駐屯地に戻り、駐屯地の概要説明、夕食、入浴、ベットメイキング及び夜間訓練（行進）を実施し、初日が終了した。2日目は、ラップとともに起床し点呼後、朝食をとり基本教練、天幕設置、資料館見学、装備品展示及び体験搭乗を行って生活体験が終了した。

参加した生徒からは、「自衛隊の方は怖い印象がありましたが、実際に話をするとやさしく明るい人が多く、印象が変わりました。このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました」という感想があり、令和3年度から3回目の参加となったキャプテンは、「昨年の富士山5合目までの練習は途中棄権で悔しかったが、今年は完走でき、面目を保つことができた。今までキャプテンとして部員に対して大きな声で指示をしたことがなかったが、今回の指導で、部員全員を把握し明確に指示を出せるようになり良かったです。来年は2泊3日にしてほしい」と話していた。また、学校教諭からは「規律や行動について、ただ厳しく行うのではなく、その行動に対して意味を理解することで、考え方が深まりました。今回学ばせていただいた事を部活動や日常生活の中でも生かせるよう、今後も取り組んでいきます」と今後の抱負が聞かれた。

相模原地域事務所は、「今後も、コロナに留意しながら自衛隊と学校部活動との『ジョイトレ』を通じて、自衛隊の活動を積極的にアピールしていきたい」としている。

